SRTがつなぎ共創する名古屋都心部の新たな価値｜名古屋市

2026/3/16

目的：SRT導入効果の最大化と評価指標の整理

- 移動価値の向上・まちの賑わい拡大を目的に運行開始する新たな路面公共交通システムSRT（Smart Roadway Transit）の導入効果を最大化するため、MaaSアプリを活用したSRT利用促進策やSRTへの利用時の利便性を高める取り組みを実施するとともに、SRTの導入効果の評価指標を整理する

事業内容：CentXの改修とSRT導入効果評価指標の整理

【交通サービスの高度化】
- SRT車内に企画券専用のQR対応車載器を導入
- MaaSアプリ「CentX」にSRT専用ページを追加。アプリ内に加え、専用HP、停留所のサイネージにて走行位置や混雑情報を提供する仕組みを整備

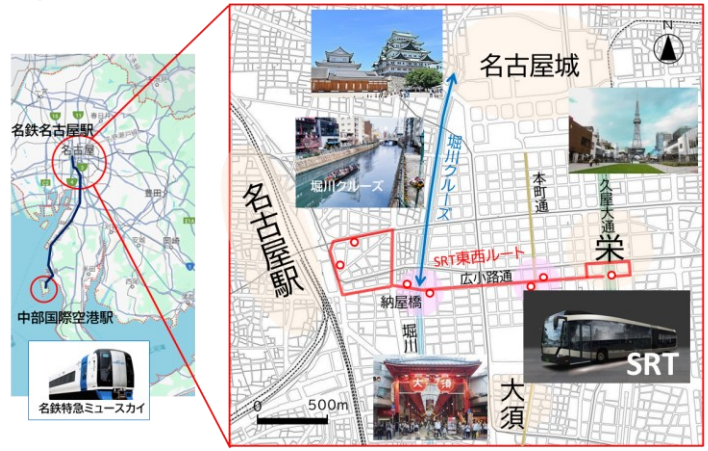
【モビリティデータの取得・活用】
- SRT車内にAIカメラを設置し、乗降場所等のデータを自動取得する仕組みの整備
- アンケート・GPS・Wi-Fiデータ等をSRT導入がまちへ与える効果を評価する指標へ活用

【エンドコンテンツとの連携】
- ARスタンプラリー機能の追加及び企画の実施
- SRT、名鉄、堀川クルーズ、中部電力ミライタワーなど、交通と観光を組み合わせたQR企画券を造成、販売

効果

- 課題：SRT導入に際し、公共交通に不慣れな来訪者には移動手段としてわかりづらく、SRTを利用した観光モードへのアクセス手段の把握が困難。交通モードと観光モードで別々にチケット手配が必要であるため、まちを楽しみながら移動してもらうことが困難。
- 効果：CentXでのSRT専用タブ設置により、バスロケ等の情報へのアクセス性が向上し、SRT停留所のお気に入り登録数が目標値を上回る1964となった。また交通と観光が一体となった企画乗車券の販売も実施し、SRT利用満足度は88%と高評価であった。

【実施エリア】



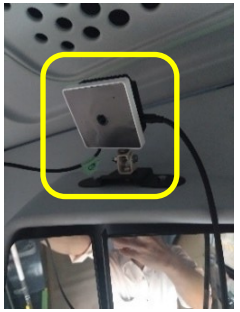
【本事業の取組の全体像】



【CentXによる情報提供】



【 AIカメラの設置】



【交通・観光一体的なQR企画券】



Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.

プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	SRT導入に際し、公共交通に不慣れな来訪者には移動手段としてわかりづらく、SRTを利用した観光モードへのアクセス手段の把握が困難。	CentXでのSRT専用タブ設置により、バスロケ等の情報へのアクセス性が向上し、停留所登録数が目標値を上回る1964となった。それに伴う利用満足度は88%と高評価であった。
2	回遊性向上や賑わい拡大、公共交通への行動変容への影響を評価する指標がなく検証が困難。検証のための乗降OD等データ取得の機器・システムが無く検証が困難。	乗降ODの取得や評価指標の整理及び分析ツールを使用できる職員数が4人となったことにより、直営でSRT導入効果の把握・分析が可能になった。
3	交通モードと観光モードで別々にチケット手配が必要であるため、まちを楽しみながら移動してもらうことが困難。	交通と観光が一体となった企画乗車券の販売によって、SRTを利用しながら観光施設へアクセスする仕組みができ、まちを楽しみながら移動できる施策として実際に57件の利用があった。

KPI

【凡例】 **赤字：目標達成**　**青字：目標未達成**

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	SRT専用ページ利用者の増加	SRT停留所登録数	データベースを確認	毎月	4	1964	SRT専用ページから発出されるバスロケ等の情報の価値が高く、利用利便性が高いため。
2	QR企画乗車券の利用件数の増加	企画乗車券の利用件数	データベースを確認	毎月	40件	57件	QRコードを活用した企画乗車券は、他モードとシームレスかつキャッシュレスな利用ができ利便性が高いため。
3	バスロケ等による利用者の利便性向上	SRT利用しやすいと思う人の割合	アンケート	ツール導入後、1回	過半数	88%	決済手段の多様性や全扉乗降の利便性、車両デザインなどSRT独自の価値が評価されたため。
4	分析ツールの利用者評価向上	分析ツールを使える担当職員の人数	ー	ー	4人	4人	分析ツール(Tableau)研修を実施し、市職員4人がシステムに習熟。
5	回遊行動の増加	ARスタンプラリー達成者数	データベースを確認	毎月	5人	10人	SRT専用ページからARスタンプラリーに遷移しやすく、利用を促す構造となっているため。

MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.